

東日本大震災において学校が担う役割と学校支援（１） ー養護教諭が行った活動と専門性に関する調査よりー

○ 西野美佐子（東北福祉大学）
内藤裕子（東北福祉大学）
荒井美智子（聖和学園短期大学）

平川昌宏（東北福祉大学）
沼山 博（山形県立米沢女子短期大学）

[目的]本研究は、今後大きな災害が生じた当初、学校が地域復興の拠点としての役割を期待される。そこで、学校の日常性を取り戻すためにも、どのような支援を学校及び教職員に対して行うことが学校の力を強化することになるのか、災害時必要な支援の内容と方法、および備えについて、調査した結果を報告するものである。

[方法]

郵送法による質問紙調査を実施した。
〈対象〉宮城県内の全小学校 410 校・中学校 207 校・高等学校 74 校・特別支援学校 22 校、合計 713 校に勤務する養護教諭を対象とした。
〈時期〉2013 年 8 月に配布し、9 月中旬に回収した。
〈調査の内容〉(今回報告するものに限定した内容)
（１）フェースシート：勤務校(学校種・震災時以降の勤務校所在市町村)・経験年数（２）震災後、養護教諭が勤務校以外で行った支援・ボランティアの有無と内容、それは依頼されたものか、自発的なものか、通常の養護教諭の知識やスキルとの関連（３）勤務校で養護教諭が行った活動（避難所運営及び学校保健・教育活動について）（３）この時期に避難所運営や学校保健・教育活動を行う上で、上司や同僚、ボランティアや外部機関などから得られた支援、必要と感じた支援について、情緒的・情動的・物質的・人的・その他の支援別に 5 段階評定を求めた。必要とした支援については具体的に記入してもらった。（４）今後災害が生じた時に、学校が避難所運営を行うことについて今回の経験を通しての意見、経験していないが不安に思うことなどを自由に記入してもらった。

[結果]

I. フェースシート結果：１）回収数：368 名の養護教諭から回答が寄せられた(回収率 51.6%)。２）震災時の勤務校：小学校 (184 人)、中学校 (85 人)、高等学校 (35 人)、特別支援学校 (12 人) で

あった。３）経験年数：20 年以上が 183 人 (51.9%：30 年以上 72 人を含む)、10 年以上 20 年未満が 79 人 (22.3%)、5 年以上 10 年未満は 55 人 (15.5%)、5 年未満が 37 人 (10.4%) であった。

II. 勤務校以外での養護教諭の資格を生かした支援活動やボランティア活動：「ある」：27 人 (7.3%)。その内「依頼された」と回答：11 人 (2.9%)。

III. 震災後から学校再開までに勤務校で行った職務・作業 １）沿岸地区と内陸地区の比較：沿岸地区にある学校と内陸地区にある学校と異なる結果であった。災害直後の養護教諭の校務である学校保健・教育に関する活動も、避難所開設運営の仕事によって災害直後の養護教諭の仕事が避難所を運営しなかった学校に勤務する養護教諭の仕事量より多く沿岸地区の方が有意に多い。

表1 地区別震災直後の養護教諭が携わった仕事 ()内はSD				
震災直後の仕事数	沿岸地区 n=104	内陸地区 n=218	t値	有意差
避難所運営の仕事数	3.56(2.53)	1.52(2.21)	7.08	***
学校保健・教育活動	3.72(2.13)	3.15(1.81)	2.36	*
仕事数合計	7.30(3.92)	4.65(3.20)	5.98	***
***<.001 **<.05				

表2 地区別養護教諭の仕事の違い(震災直後から学校再開まで)				
養護教諭の対応内容	沿岸地区 n=104	内陸地区 n=218	Pearsonの カイ二乗値	有意差
避難所の衛生管理	67(64.4)	71(32.6)	29.17	***
食糧配布	64(61.5)	62(28.6)	32.04	***
トイレの掃除	64(61.5)	55(25.2)	39.84	***
怪我人の手当て	51(49.0)	45(20.6)	27.13	***
避難所運営	47(45.2)	43(19.7)	22.43	***
高齢者・障害者の介護	39(37.5)	38(17.9)	14.75	***
食糧調達	20(19.2)	12(5.5)	14.82	***
避難者の名簿作り	18(17.3)	12(5.5)	11.61	**
遺体処理	5(4.8)	2(0.9)	5.01	*
環境衛生管理	84(80.8)	158(71.8)	2.99	ns
不安や混乱を示す児童への対応	65(62.5)	119(54.1)	2.03	ns
健康管理	60(57.7)	118(53.6)	0.46	ns
児童生徒の安全確認	54(51.9)	112(50.9)	0.02	ns
健康相談	53(51.0)	85(38.6)	4.38	*
救急処置	46(44.2)	68(30.9)	5.04	*
健康教育	28(26.9)	36(16.4)	4.96	*
***<.001 **<.01 *<.05 ns=有意差なし				

２）専門性との関連：沿岸地区の養護教諭は専門的知識以上の知識やスキルを必要と感じていた。

表3 震災時養護教諭が行った活動の職業的専門性との関連				
専門的知識との関連	全体	沿岸地区	内陸地区	
A 全く関連なかった	27(9.1)	6(5.9)	21(10.7)	
B 関連しており、それ以上の専門的知識の必要を感じなかった	72(24.2)	18(17.6)	54(27.4)	
C 関連していたが、それ以上の専門的知識が必要と感じた	190(63.6)	75(74.3)	115(58.4)	
D その他	8(3.0)	2(2.0)	7(3.6)	
合計	298(100)	101(100)	197(100)	

謝辞：本研究は東北福祉大学感性福祉研究所における文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業(平成 24 年度～28 年度)による私学助成を受けている。